

令和4年度 遺跡整備・活用研究集会 開催概要

■ 開催趣旨

令和4年は、平城宮跡史跡指定百周年で遺跡の保存史を振り返る年となった。幕末には陵墓研究家による平城京復元図の作成があり、明治32年には建築史家による大極殿跡等の発見および翌年の新聞発表の後、34年の地元による標木の建立があり保存顕彰が始まった。これらの背景には尊王思想の高揚や帝国議会貴族院での御歴世宮址保表ノ建議など政治的要請があった。

近世から知られている旧跡や名所では近世大名による遺構の保存や顕彰が行われ、記念碑などとして履歴を可視的に残す場合もある。近世における旧跡・名所の保護の実際とその背景、さらに近代におけるそれらについても情報を共有し、遺跡等の履歴と整備史の認識を深めたい。

■ テーマ 近世・近代における旧跡・名所の保存顕彰

■ 日 時 令和5年3月21日（火） 9：30～16：50

■ 場 所 奈良文化財研究所 本庁舎 2階大会議室

■ 事務局

内田 和伸	（奈良文化財研究所 文化遺産部 遺跡整備研究室）
高橋 知奈津	（奈良文化財研究所 文化遺産部 遺跡整備研究室）
竹内 祥一郎	（飛鳥資料館）

■ 参加者 発表者

鈴木 暎一	（茨城大学 名誉教授）
羽賀 祥二	（名古屋大学 名誉教授）
一瀬 智	（九州国立博物館）
佐藤 嘉広	（岩手大学平泉文化研究センター）
藤本 清二郎	（和歌山大学 名誉教授）

コメンテーター

小野 健吉	（大阪観光大学）
小坪 のり子	（弘道館事務所 主任研究員）
入佐 友一郎	（九州歴史資料館）

■ プログラム

9：30～9：40	開会挨拶・趣旨説明
9：40～10：40	報告① 「徳川光圀の文化財保護」 鈴木 暎一（茨城大学 名誉教授）
10：50～11：50	報告② 「近世尾張藩における史蹟の保存と顕彰」 羽賀 祥二（名古屋大学 名誉教授）
13：00～14：00	報告③ 「福岡藩における大宰府跡の保護・顕彰」 一瀬 智（九州国立博物館）
14：00～14：20	報告④ 「仙台伊達藩による平泉の遺跡の保護顕彰」 佐藤 嘉広（岩手大学平泉文化研究センター）
14：30～15：30	報告⑤ 「紀州徳川藩における名勝和歌の浦の顕彰 ―「望海楼遺址碑」・「奠供山碑」をめぐる―」 藤本 清二郎（和歌山大学 名誉教授）
15：40～16：40	質疑・総合討議
16：40～16：50	閉会挨拶



研究報告



総合討議